

＜第11回日本音楽療法学会四国支部学術大会・第11回同総会が開催＞

日本音楽療法学会四国支部報告 (2016. 1. 15)

第11回日本音楽療法学会四国支部学術大会および総会が下記のように開催されました。

日時 : 2016年1月11日(月、祭)
10:15～16:00 (総会 16:00～)
場所 : あわぎんホール
(徳島県郷土文化会館、徳島駅から7分)

内容 : 教育講演2題および一般演題

教育講演① : 原寛先生(原土井病院)

「人々に広く健康を」

教育講演② : 生野里花先生(東海大学)

「人とともにある音楽～
音楽療法ができること～」

開会式に引き続き、午前と午後には教育講演、昼の時間帯には、世界音楽療法学会に関する連絡、口演発表やポスター発表が行われました。

**第11回
日本音楽療法学会四国支部
学術大会**

日時:平成28年1月11日(月・祝)
午前10時15分～午後4時

場所:あわぎんホール(駅から徒歩7分)
(徳島県郷土文化会館)

9:45～受付
10:15～開会挨拶
10:20～教育講演1「人々に広く健康を」
原土井病院理事長 原 寛 先生
11:00～昼食&ポスター発表(自由討論形式)
13:20～口演発表
14:20～教育講演2「人とともにある音楽～音楽療法ができること～」
東海大学非常勤講師 生野 里花 先生
15:55～閉会式(引き続き16:30まで総会)

全国学術大会と同等のポイント取得可

参加申込 参加費の振込をお願いします。振込先は以下です。
ゆづり主催 日本音楽療法学会四国支部 記号 16320 番号 11187771
徳島県からの参加の場合に限り 日本音楽療法学会本部まで
(店名)六三八 (店番)638 (国庫番号)普通預金 (口座番号) 1118777
参加費 学会会員および学生 2000円、一般の方 3000円
締 締め込みの期限は2016年12月22日(火)までとします。その後は、当日会場での支払いとなり、それぞれ学会会員 学生 2000円、一般 4000円となります。
問い合わせメール pianomethod@nara.ac.jp (敬愛)
演題申込 日本音楽療法学会会員による演題発表の申込みや詳細については、
四国支部のHP <http://www.jam-shikoku.jp/> で最新の情報をご確認の上、
HPで必ず締切に基いてお申し込みし、メールでご連絡してください。
締切り、平成27(2015)年12月10日(木) 必要です。

1) 教育講演① 原寛先生(原土井病院理事長)

原先生がお話された中では、「養生訓」に学ぶ～生活習慣病と超高齢社会が印象的でした。

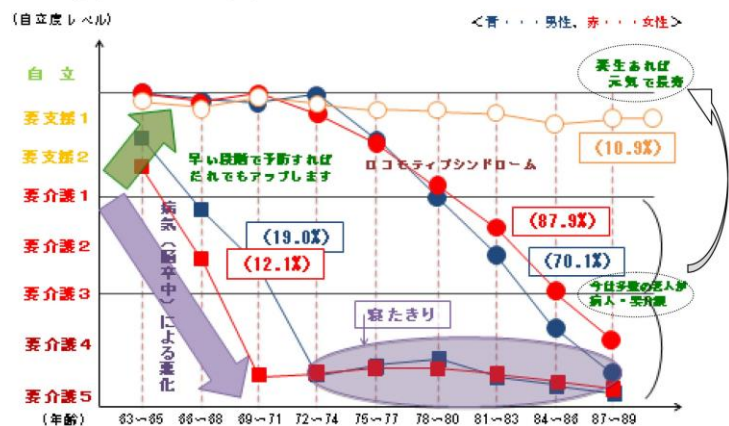


養生訓を書いた貝原益軒は、江戸時代初期から中期にかけて活躍した福岡藩士兼学者です。益軒翁が八四歳の時に書き上げた養生訓は、現代まで300年間続くベストセラーなのです。

原先生の先祖である原三信(六代)も、ほぼ益軒と同じ時代を生き、長崎でオランダ医学を学び、日本で最初の西洋医学書を残され、今回原先生が新著で要約されました。

今、養生訓を取り上げた理由の一つとして、現在の医療のままで高齢社会が続けば、高齢者の医療・介護は増え続け、2020年度の社会保障給付費は134兆円を超えてしまいます。原先生による参考図を示します。

自立度による変化パターンと養生による変化(男性&女性) —全国高齢者20年の追跡調査



2) 世界音楽療法学会のご紹介・学術発表

日本音楽療法学会からご依頼がありました来年夏に開催される世界音楽療法学会について、情報が提供されました。



最新情報はホームページで

WCMT2017で検索してください！ <http://wcmt2017.com/>



引き続き、口演発表が3題行われました。ここでは、質疑応答の際、音楽療法における研究プロトコルおよびスペキュレーションに関する指導的なコメントなども認められました。

第15回世界音楽療法大会が2017年7月3日(月)～8日(土)に、つくばエポカルで開催されます。最新情報は、<http://wcmt2017.com/> をご覧ください。

昼には、あわぎんホールロビーでポスター発表が行われ、参加者はおよそ1時間、ポスターの前で発表者と自由闊達に意見を交換しました。

ここでは、いろいろな音楽療法の研究について、発表者自身から詳細な状況を聞き、直接議論ができるという利点がみられます。このたびのポスター発表においても有意義な機会になったものと思われます。



3) 教育講演② 生野里花先生(東海大学)

午後は、教育講演②として、生野里花先生(東海大学)が「人とともにある音楽～音楽療法ができること～」についてお話をいただきました。

生野先生は、このたびのご講演に際して、パワーポイントの詳細な資料を御呈示いただき、受講者にとってとても有用な資料となるとともに、非常に充実したレクチャーをしてくださいました。

その中で、音楽療法が有する役割について、いろいろな基本についても触れられました。



つまり、全人的医療の中で、音楽療法の作用として、社会性、スピリチュアル、認知、感情、感覚・運動など多面的に考えていく必要があります。

生野先生は次のように、まとめられました。音楽ができることとして、主なものに次のものが挙げられます。①人を健やかな心身の在り方へと促してくれる、②その人の個人的な意味を掘り起こし、生きる力をパワーアップしてくれる、③その人と他の人との係わり合いをすすめて、新しい生き方を編み出す「触媒」になってくれる。

そして①②③の順番に、音楽療法士の専門性がさらに必要となっていきます。

音楽療法が働きかける側面 (全人的健康)

